

An impressionistic painting featuring a large, dark, textured mountain peak in the background. In the foreground, there are several tall, green-stemmed plants with yellow and white flowers, possibly cornflowers or similar wildflowers. The overall style is painterly with visible brushstrokes and a muted color palette.

つかの間のへ

林謙一

つかの間のペン

林 謙一

林 謙 一

(はやしけんいち)

明治39年11月6日東京生まれ。

チャーチル会，ベルくらぶ，パイプクラブ，
日本エッセイスト・クラブ所属の自由業。
著書に昭和41年NHK朝の連続ドラマで好評
を博した『おはなはん』、『2Bのエンピツ』
『日曜画家』『サンドイッチ親爺』『油絵のす
ずめ』など。

つかの間のペン

1977年6月20日 初版発行

著者 林 謙 一

© Kenichi Hayashi 1977

発行者 大邊 豊

発行所 PHP研究所

電話 075-681-4435

京都市南区西九条北ノ内町11 〒601

印刷 東洋印刷株式会社

0095-213200-7159

Printed in Japan

万一、落丁乱丁の際には
お取替えいたします。

大宅ノンフィクション賞受賞

黄昏のロンドンから

木村治美

『斜陽の国が英国の実態とは？ ロンドン滞在
中の悲喜文々の触れ合いとハブニングを、女
性の柔らかな心とユーモアで綴る文明時評。』

¥ 880

モタさんの汽車の旅 斎藤茂太

狂人的乗物マニアの茂太先生が汲めども尽き
ぬ汽車の魅力と窓から見た諸国の国情をユー
モラスに語りながら遂に地球をひとめぐり。

¥ 780

女がはばたくとき 桐島洋子

人間として女性として、自由に主体的に生き
ることの困難に自ら挑戦する著者が、若い女
性たちに愛と人生を語る初めてのエッセイ集

¥ 780

ヤマネコの島縦断記 東 君平

ほのぼのくんべい氏を隊長とする一行四人が
幻のヤマネコを求めて西表島探検に出発。さ
てこの四人を待ちうけていたものは？

¥ 780

人間はわかりあえるか 原 ひろ子

ある文化人類学者の旅

歴史・民族・文化の違いを超えて、同じ人類
生物としてもっとお互い深い理解を持ち合え
ないものか。ダイナミックな人間探索の書。

¥ 890

PHPの本

止まらない 時間のなかを 草野心平

人間・動物・植物のあるがままの姿を詩人の魂で感得し、溢れるような力強い愛情を注ぐ。現代詩壇の最高峰・草野心平珠玉の随想集。

¥ 1,200

美のイメエジ 宗左近

美—この捉えどころのないものを、あらゆる視点から探り新たなイメエジを創り出そうとする、美の遊行者・宗左近の書き下し評論。

¥ 1,300

藪の中の旅 富士正晴

現代の隠者富士正晴が竹藪の中の方丈庵から見据えたこの世の諸相・旅・歴史・人間などを縦横無尽に語り明かす特異な随筆随筆集。

¥ 940

百人百話 池田弥三郎 梅棹忠夫

監修

民衆の生活の中から生まれた諺—百人の知識人が自らの仕事観・人生観を諺に託してみごとに描きあげた異色の日本文化論的エッセイ。

¥ 1,000

船場育ち 楠本憲吉

秀吉以後数百年に亘って脈々と流れる大阪商人の心意気とそこから生まれた生活の知恵を、船場の商家出身の筆者が紹介する好著。

¥ 840

3181冊

の本 扇谷正造

監修

一冊の本との出会い—それは私の人生を豊かに潤した。著者たちの心に鮮烈なイメージを残した本との出会いを綴る珠玉の32編。

¥ 880

一枚のレコード 扇谷正造

監修

青春の甘い思い出、暗い戦争—過ぎし日の背景に流れる一枚のレコード。エッセイの達人によって忘れ得ぬ旋律がいまここに甦る。

¥ 880

万葉のいぶき 犬養 孝

愛・旅・四季をめぐって躍動する万葉びとおおらかな心—千三百年余もの時間を超えてみずみずしい生のいぶきを伝えてくれる。

¥ 720

ゆっくりにしいや 大西良慶

百歳を迎えてなお現役で活躍する清水寺貫主が淡々と語りかける人生の奥義。懐しい現代にあって、自らの生き方を問いたるため。

¥ 980

私はまだかつて嫌いな人に逢ったことがない 淀川長治

映画を愛し、人生を愛し、母を愛した「サヨナラおじさん」が映画の話、楽しいエピソードを満載して贈る心あたたる人生随想集。

¥ 720

つかの間のペン*目次

I

手紙随筆 11

若者は親考行と書く 14

“親父役”交換 18

百万長者の家出娘探し 22

屑屋の勲章 28

婦人子供大売り出し 31

親切、世話好き、おせっかい 36

長寿 40

駅の情 43

銀行で靴を洗う 45

歳の暮 48

II

撃つなッ！ 58

泰西名画と蓄電池 64

一冊の画集 68

失われいくもの 76

暮しの音／呼び売りの声／市電悲歌／暮
しのおい／おふくろのにおい／人情／
美しい日本語／香り／粹な形／日本の色

アニトラの踊り 105

成人式 114

運転はもうよそう 118

III

春

ガメランの鐘	133
チョッキン、チョッキン床屋でござる	136
おとうさん	138

お正月	149
春の足音	150
今の日本	152
雑種の強味	153
長所と短所	155
自然と人	
間	156
現代の若者	157
断絶	159
働く喜	
び	160
平和	162
協力	163
態度	165
兄弟	166
嫁と姑	168
熟成四十五年	169

夏

愛……171
 ち……175 馬鹿正直……177 競争……178 病氣……180
 苦勞……181 与えるということ……183 心……184
 しあわせ……185 責任感……187 財産……188 雰囲
 気……190 忍耐……191

秋

收穫……193 善意……194 劣等感……196 義理……197
 心の安らぎ……199 無意味……200 立腹……201 名
 誉……203 語感……204 私の好きな言葉……206 先
 入観……207 勤勉……208 大人になる……210 環境
 ……211 忠実……213

冬

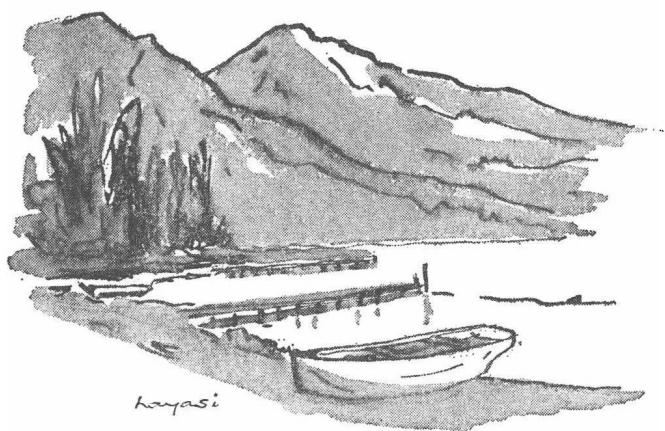
冬が好き…… 215
心のゆとり…… 216
信用…… 218
仲直り…… 219
熱意…… 221
出会い…… 222
心の平
静…… 224
第三次成長…… 225
神だのみ…… 227
公
害…… 228
生きる喜び…… 229
年をとる…… 231
歳
の暮…… 232

あとがき
234

装幀画・本文カット 林 謙一
装幀デザイン 上田晃郷

つかの間のペン

I



手紙隨筆

若い人はいっこうに手紙を書こうとはしない。劇画漫画の本ばかり見ているから字が分らなくて面倒なのだそうだ。それはたしかに面倒ばかりではない。手間もかかる。辞書を引っ張り出したり、封筒をナメたり、郵便番号を調べたり万事省力の世の中では面倒なことには違いない。

じゃ君達はラブ・レターを書かないのかい、と尋ねるとラブ・フォーンなのだそうだ。

「その方が相手の生の声なまこゑも聞けるしさあ、話のニュアンスも掴めるしさあ、ご機嫌のほども分るよう」

「そうかも知れないが、電話じゃ周りで誰が聞いているか分らんじゃないか。二人だけのコミュニケーションには不向きだね。それに相手の意志や思っていることを反すうすることが出来ない。やはりラブはレターだよ」

「僕は牛の胃袋じゃないから反すう、なんか必要だよ」